

研究開発完了報告書

住所 島根県松江市殿町1番地

管理機関名 島根県教育委員会

代表者名 教育長 新田英夫

令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、  
下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和元年 5月30日(契約締結日)～令和2年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 島根県立松江東高等学校

学校長名 野々村 卓

類型 地域魅力化型

3 研究開発名 「中核市発 持続可能な社会を創造する「地域共創人」の育成」

4 研究開発概要

「主体的学習者としての力」、「探究的学習力」、「社会的自立力(キャリア形成力)」、「地域共創力(価値創造力)」、「多文化協働力」を伸ばして Society5.0 を地域から分厚く支える人材である「地域共創人」の育成には、確かな学力に加え、さらなる経験、さらなる探究心、さらなる創造力が必要であり、そのために次の6つの研究開発を行う。

- |   |
|---|
| I 「地域共創人」を育成する3年間の体系的なカリキュラム研究(地域共創人育成 Project) |
| II 文理融合型の教育を目指す2年次からの「地域共創コース」のカリキュラム研究         |
| III 県指定で2年間実施した教育課程実践モデル事業の継承による主体的学習者育成研究      |
| IV 教育を核とした多文化協働・地域共創研究                          |
| V 持続可能な学校魅力化事業研究                                |
| VI 単位制普通高校移行や新学習指導要領の内容を見据えた学校の魅力化研究            |

5 教育課程の特例の活用の有無

なし

## 6 管理機関の取組・支援実績

### (1) 実施日程

| 業務項目                             | 実施日程 |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
|----------------------------------|------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
|                                  | 4月   | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 島根県高校魅力化コンソーシアム構築事業研修会開催         |      |    |    | 1回 |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 島根県高校魅力化コンソーシアム先導モデル創出事業等成果報告会開催 |      |    |    |    |    |    |     |     |     |    | 1回 |    |
| 松江東高校コンソーシアム設立準備会                | 1回   |    |    | 1回 |    | 1回 |     |     |     |    |    |    |
| 松江東高校コンソーシアム役員会、ワーキンググループ参加      |      |    |    |    |    |    |     |     | 1回  |    | 1回 |    |
| 松江東高校教職員研修会参加                    |      |    |    |    |    |    |     | 1回  |     |    | 1回 |    |
| 全国高等学校教育改革研究協議会」参加               |      |    |    |    |    |    | 1回  |     |     |    |    |    |

### (2) 実績の説明

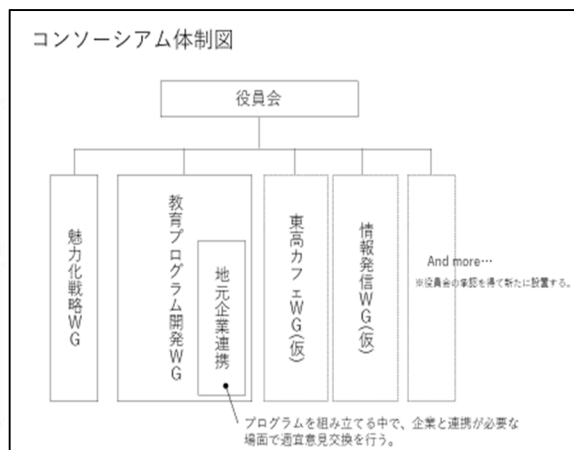
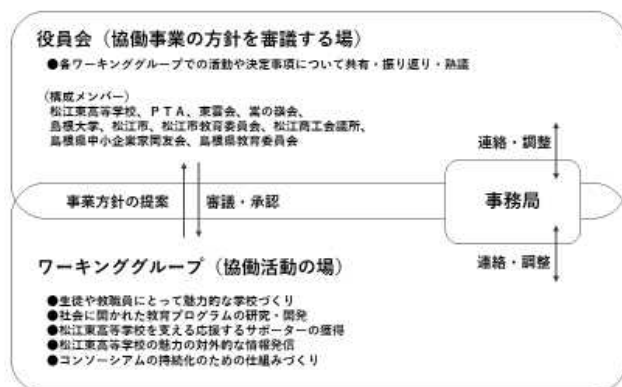
- ① 管理機関による事業の管理方法や地域において構築するコンソーシアムの構成，カリキュラム開発等専門家，海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の配置について
- ア コンソーシアムを支援する県のスタッフを「伴走者」として配置  
コンソーシアムの設置や運営にあたる県側の窓口となり、県の有する権限・予算・施策や人的リソースの活用が有効である場合は担当部署等につなぎ、課題解決に貢献した。

(伴走者) 島根県教育庁教育指導課地域教育推進室 後藤康太郎 社会教育指導主事

- イ コンソーシアムの構成  
構成団体、概念・体制図

|            |             |                 |
|------------|-------------|-----------------|
| 松江東高等学校    | 松江東高等学校PTA  | 東雲会(松江東高等学校同窓会) |
| 一般財団法人嵩の嶺会 | 国立大学法人島根大学  | 松江市、松江市教育委員会    |
| 松江商工会議所    | 島根県中小企業家同友会 | 島根県教育委員会        |

コンソーシアム概念図



ウ 「高校魅力化コンソーシアムマネージャー」の配置

「高校魅力化コンソーシアム先導モデル創出事業」として高校魅力化コンソーシアムの設計・設立・運營業務支援、普及のための活動ノウハウの抽出や成果の取りまとめを行う「高校魅力化コンソーシアムマネージャー」を松江東高校に配置し、支援すると共に県内での全高校を対象とした研修会で成果を普及した。

(株) エブリプラン 福井 香衣 氏  
 柏井 加那子 氏

② 管理機関による主体的な取組について（コンソーシアムによる取組も含め記入すること）  
 (主体的な取組の例)

ア 「高校魅力化コンソーシアム先導モデル創出事業」を実施

前述の伴走者及びコンソーシアムマネージャーを配置し、「県立高校魅力化ビジョン」に掲げられている、学校と地域の協働を推進するための「高校魅力化コンソーシアム」の先導モデルを創出した。

イ 「高校魅力化コンソーシアム」の先導モデルの知見を広め、地域協働スクールの実現を図るための研修会を全県立高校対象に実施

(ア) 高校魅力化コンソーシアム先導モデル創出事業第1回研修会 (R1.7/22)

- (内容) 1 全体会  
 2 先導モデル別分科会  
 (松江東高校、津和野高校、隠岐島前高校、雲南市教育委員会)  
 3 自校・自地域別分科会 (市部、離島・中山間地域、雲南市)

(イ) 高校魅力化コンソーシアム先導モデル創出事業成果報告会 (第2回研修会) (R2.2/7)

- (内容) 1 全体会  
 (1) 島根県教委 佐藤教育監「県立高校魅力化ビジョンの実現に向けて」  
 (2) 次年度以降に向けた取組 (学校ビジョン実現に係る行程表の作成)  
 (3) 先導モデル校パネルディスカッション  
 (松江東高校、津和野高校、隠岐島前高校、雲南市教委、島根県教委)  
 (4) 先導モデル校発表  
 (プロフェッショナル型) 出雲農林高校、(地域魅力型)平田高校

2 分科会 1

コンソーシアム構築、社会に開かれた教育課程づくりに関する意見交換、質疑応答

(パネリスト 松江東高校、津和野高校、隠岐島前高校、雲南市教委)

### 3 全体会2

A しまね留学、B 模擬探究学習、C 学びの土壌を育む交流の場づくり、  
D 加配主幹教諭

ウ 県事業「明日のしまねを担うキャリア教育推進事業」及び「普通科高校における資質・能力育成支援事業」の実施  
学校や地域の実態に即したキャリア教育や課題解決学習を通じ、必要な資質や能力の育成を支援した。

#### ③ 国費に上乗せした独自の支援や取組の実施

なし

#### ④ 継続的な取組を行うための教員の人事面における配慮等

なし

#### ⑤ 高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

国立大学法人島根大学と島根県教育委員会において、県立高等学校と大学との連携及び協力（高大連携）に関する連携協力協定を平成31年2月28日に締結しており、この協定に基づき松江東高校をパイロットモデル校として設定し、取組を推進した。

#### ⑥ 事業終了後の自走を見据えた取組について

##### ア 高校魅力化評価システムの構築

教育の魅力化に取り組む学校・地域の状況についてアンケートを用いて定量的に把握するシステムの構築を進め、取組の検証を支援した。

##### イ 「高校魅力化の財源基盤強化勉強会」の企画（中止）

高校魅力化に関わる財源基盤強化の必要性について実践校の取組を中心に意見交換を行い、持続可能な体制づくりについて検討する。

## 7 研究開発の実績

### (1) 実施日程

| 実施項目                       | 実施日程 |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
|----------------------------|------|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
|                            | 5月   | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 科目「総合的な探究の時間（1年生）」における探究学習 |      | 1回 | 4回 | 1回 | 3回 | 2回  | 3回  | 2回  | 3回 |    | 1回 |
| 科目「総合的な学習の時間（2年生）」における探究学習 |      | 2回 | 3回 | 2回 | 2回 |     |     | 2回  | 1回 |    |    |
| 学校設定科目「データサイエンス」における研究     |      | 1回 | 1回 |    |    |     |     |     |    | 1回 |    |
| 学校設定科目「プログラミング基礎」における研究    |      |    |    | 1回 |    |     |     |     |    |    |    |

|   |  |    |  |  |  |    |  |    |    |    |  |
|---|--|----|--|--|--|----|--|----|----|----|--|
| 単位制普通高校移行<br>や新学習指導要領の<br>内容を見据えた学校<br>の魅力化研究 |  |    |  |  |  |    |  | 1回 |    |    |  |
| 教育を核とした多文化<br>協働・地域共創研究                       |  | 1回 |  |  |  | 1回 |  |    | 1回 | 1回 |  |

## (2) 実績の説明

### ① 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

ア 科目「総合的な探究の時間（1年生）」における探究学習では、課題解決型学習の導入編として「東高のCMをつくる」活動に取り組んだ。身近な学校の魅力を探し、それをビデオに編集し発表した。次に練習編として「地域の魅力と課題を知る」活動で、松江市、地元商店街、中小企業家同友会より現状と課題を聞き、その中から関心を持ったテーマを選び、その解決方法を提案した。また、12月より実施した「ライフデザイン探究」では、大学で学ぶ意義やこれからの人生設計のあり方を考える機会となった。

イ 科目「総合的な探究の時間（2年生）」における探究学習では、2年生が島根大学で学生と一緒に「イノベーション創生基礎論Ⅰ」という講義を受け、「松江の〇〇を東京の△△に売り込むには？」という課題に取り組んだ。市内各所を巡る校外調査活動に加え、東京研修旅行で関連する企業等に訪問したり、街頭インタビューを実施したりするなどして、松江市内のサービス、商品、観光地など魅力を再発見するとともに、それらをどうPRし、売り込んでいけば良いか、といったことを考察し、その成果を発表した。

ウ 学校設定科目「データサイエンス」の研究開発では、研修会・講義に参加し、統計分析の手法やデータサイエンスに求められる考え方や手法、また、表現の仕方や現在行われている取組について研究した。

エ 学校設定科目「EASTプログラミング基礎」の研究開発では、情報教育研究会に参加した。プログラミング的思考を身に付け、問題発見力・解決力の育成も踏まえたより良い情報教育をいかに実現させていくべきかを研究した。

オ 単位制普通高校移行や新学習指導要領の内容を見据えた学校の魅力化については、県外の先進校を視察し、教育課程の運用面や教務規定、特色的な学習内容について研究した。

カ 教育を核とした多文化協働・地域共創研究では、県外の先進校の取組や管理機関が主催する取組について調査した。また、埼玉県教育委員会主催「学校地域WIN-WINプロジェクト」フォーラムに参加し、自地域のみならず、他地域を巻き込んだ取組について研究した。

### ② 地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け (各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等)

- ・総合的な探究（学習）の時間において「MATSUE 探究」を1、2年生で実施

### ③ 地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

- ・学校設定科目「データサイエンス」を2年生で実施（R2年度より開講予定）

### ④ 地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

- ・探究的な学びを実現し、魅力化を図るために新たな分掌「魅力化推進部」を設置

### ⑤ 学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

ア 魅力化推進部が中心になり、カリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員と協議の上、地域共創人育成 Project のプログラムを研究、開発

- イ コンソーシアム設立時に上記会を「教育プログラム開発ワーキンググループ」として組織に位置付け、体制を整備した。
- ⑥ カリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員の学校内における位置付けについて  
下記4氏ともに「松江東高校魅力化コンソーシアム」の下部組織「教育プログラムワーキンググループ」に属し、「地域共創人育成 Project」のカリキュラム開発を行った。
- ア カリキュラム開発等専門家  
島根大学地域未来協創本部 講師 高須 佳奈（都度依頼し謝礼支払い）月2回程度来校  
島根大学教職大学院 准教授 熊丸 真太郎（都度依頼し謝礼支払い）月2回程度来校
- イ 地域協働学習実施支援員  
島根大学教職大学院 准教授 中村 怜詞（都度依頼し謝礼支払い）月3回程度来校  
島根大学教職大学院 教授 千代西尾 祐司（都度依頼し謝礼支払い）月1回程度来校
- ⑦ 学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて
- ・毎週1回校内連絡会を実施  
参加者 校長、教頭、事務長、主幹、魅力化推進部長、教務部長、生徒部長、進路部長、コンソーシアムマネージャー 計9名
- ⑧ カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について
- ・コンソーシアムに研究・開発を行うワーキンググループを組織し、カリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員はそのワーキンググループの一つに属する。
- ⑨ 運営指導員会等、取組に対する指導助言等支援について
- ア 運営指導委員会の構成員  
松江市副市長 能海 広明  
関西大学教育推進部教育開発支援センター 教授 森 朋子  
(有)お茶の三幸園代表取締役 大島 正也  
(株)アテナ主席研究員 上田 泰子  
地域・教育魅力化プラットフォーム共同代表 岩本 悠
- イ 活動日程・活動内容  
令和元年12月6日 第1回運営指導委員会  
・2年生総合的な学習の時間の成果発表会視察及びテーマ設定に関する協議・指導助言  
令和2年3月17日 第2回運営指導委員会  
・今年度の活動報告及びR2年度計画について  
(新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため中止。資料送付にて意見聴取のみ実施)

#### 【第1回運営指導委員会提言】

- ・生徒に与えるテーマをもう少し広げれば、生徒の探究もより深まるのではないか。
- ・教科とどう連携するのか、地域がどうメリットを受けるのが課題
- ・「誰が、誰にしているのか」主語を明らかにすべき。
- ・小さいPDCAを2回ぐらい回すようなやり方でリアリティを感じさせることが大事。限られたリソースの中でやると、本当にクオリティが高まり学びに繋がる。
- ・発表のフォーマットを決めず手づくり感があるものもあってよい。
- ・幅広い課題から自分で選んで、決断するという活動は社会人にとっても大事。そういう人材を若いうちから育てていただけると企業としては嬉しい。

- ・生徒たちが松江の魅力を見つけていくような場にしてもいい。地域の側からは子供たちが松江をもう一度好きになる、ここに帰ってきたいと思わせるような事業であってほしい。
- ・学力が担保できている形での事前学習にすると、入試にも使え、生徒にとっても動機付けになる。これがうまく回ると、大規模の進学校における探究のモデルになり得るはず。
- ・運営指導員会とコンソーシアム役員会を兼ねるなど学校にとっていい形で開催する方がよい。

#### 【第2回運営指導委員会提言】

- ・この一年の進め方や取組、課題・原因等を深く振り返り、新年度の事業や探究的な授業に活かせる学びを抽出・共有できる機会と時間を設け、次年度の改善につなげられると良い。
- ・年間のカリキュラムデザイン、一回一回の授業設計とファシリテーション、フィードバックの仕方等において、改善の余地がまだまだある。生徒が「行動あって意欲なし」「活動あって学びなし」とならないよう、目的や狙いをしっかりと理解・共有して進め、改善していくのが大事。
- ・松江東高校の強みとなる教育資源の一つは、多彩な卒業生たちだと思うので、若く意欲のある卒業生たちが、高校生の探究に関わり支援する機会や仕組みをつくってほしい。
- ・コンソーシアムや事業推進に関しては、教員が教育課程にしっかりと向かえるようにするためにも、事務室・職員のリーダーシップや働きが鍵になる。事務室・職員がコーディネート機能を発揮してほしくないような、事務室や職員の役割・業務の見直し、機能強化充実が進むと良い。
- ・目的を明確にして多様な関係者と関わりを持ち、体系づけた事業展開ができた。学年毎にレベルを合わせ、生徒を指導された先生方の努力を高く評価する。さらに各学年の成長ぶりを把握できる仕組みの検討が必要。
- ・生徒、教員、地域の協力者等の評価を含め、総合的に見て本事業の改善、効率的な運営を進め、他校に横展開できるような視点を持って実施する必要がある。
- ・生徒に地方創生の必要性を説明し、その視点を持って、地域との協働がなぜ必要なのかを社会人と生徒が対話をしながら理解し合った上で、各事業に取り組むことが必要。
- ・本事業は生徒、学校、地域とともに作り、ともに育てる事業となることを期待している。それぞれにメリットがあるように地域、企業等関わった人の評価の導入を検討してほしいか？
- ・1年目でカリキュラム開発、支援員の協力など島根大学と協働で取り組むスタイルが構築されたことは素晴らしい。各事業の実施回数からみても、熱心な状況が伺え、滑り出しとしては良い。
- ・埼玉県フォーラムでは積極的によい質問をしていたと聞き、実力が備わっているようだ。やり方は今後改善しながらも、実行することの方が大切だと思った。
- ・ビジョンは、みんなの目標とする「理念」。ここがぶれると個々の役割の中で実行することに小さなズレが生じる。ビジョンを共有できていないから「何をしてよいかかわからない」という傾向があるのか？校長先生をはじめとする方々のリーダーシップに期待
- ・計画を立て、実行しながら、柔軟に変えていくスタイルと、島根大学等の協力者の力添えで、東高の魅力化に取り組んでもほしい。「東高カフェ」には若い感性を加え、活性化を期待する。

#### ⑩ 類型毎の趣旨に応じた取組について

- ・JRC 部による川津幼稚園での防災教育の実施

#### ⑪ 成果の普及方法・実績について

#### ア 都市部の先導モデル校である本校の取組状況や現状の課題を発表

7/22 高校魅力化コンソーシアム構築事業研修会

10/17 島根大学「教育・入試懇談会」でのパネルディスカッションパネラー

1/15 埼玉県教育委員会主催「学校地域 WIN-WIN プロジェクト」フォーラム

- 2/7 高校魅力化コンソーシアム先導モデル創出事業成果報告会
- イ 教職員研修会を外部にも公開  
2/21、22 教職員研修会
- ウ 1年生総合的な探究の時間「MATSUE 探究Ⅰ」の公開  
6/18 日本マイクロソフトによる「A I りんな」の体験授業  
8/30 1年生「東高のCMをつくろう」を文化祭で全校生徒や保護者に上映、最優秀作品は学校のHPに掲載  
11/26 1年生「地域の魅力と課題を知ろう」成果発表  
松江市、学園通り商店街、中小企業家同友会等が来校
- エ 2年生総合的な学習の時間「MATSUE 探究Ⅱ」の公開  
10/17 島根大学「教育・入試懇談会」にて2年生代表生徒が「松江の〇〇を東京の〇〇に売り込むには？」の成果発表  
11/16 島根大学・島根県教育委員会主催「しまね大交流会」にて全48班がポスターセッションを実施  
12/6 学年発表会。関係企業等、県外高校からの視察、運営指導委員に公開  
12/17 学年代表の8班が校外会場にて発表。教育関係者、関係企業等、保護者に公開
- オ その他広報活動  
ホームページにおいて魅力化事業の成果を普及  
パンフレット及び成果報告書の印刷

## 8 目標の進捗状況、成果、評価

- ・HPの更新回数は、担当部署の変更や探究学習の取組を小まめにアップすることで大幅に増加しただけでなく、HPそのものをスマートフォンでも見やすい形やこれまでのカテゴリを再編、新たなページの作成等設計から改善した。
- ・教育プログラム開発のワーキンググループの回数は、小規模なものも含めて32回と当初目標から大幅に増加した。これにより生徒の状況に応じてその都度実施内容を検討し、効果的な学習を進めることができた。

## 9 次年度以降の課題及び改善点

- ・地域との協働による探究的な学びを進めていく上で、今年度生徒は他者から与えられたテーマによって課題解決型学習を実践したが、学習者である生徒自身が自分事として主体的に取り組み、その後の学ぶ意欲の向上と発展につながるテーマ設定をできる仕組みをつくる必要がある。
- ・教職員の意識の中に地域と協働した探究的な学びの必要性が十分に認識されているとは言い難い状況にあると思われる。事業を進めていく中で徐々に浸透させていく必要がある。

### 【担当者】

|     |             |        |                                 |
|-----|-------------|--------|---------------------------------|
| 担当課 | 島根県教育庁教育指導課 | TEL    | 0852-22-6428                    |
| 氏名  | 後藤康太郎       | FAX    | 0852-22-6026                    |
| 職名  | 社会教育主事      | e-mail | goto-kotaro@edu.pref.shimane.jp |